

2018年度第3四半期業績のご報告

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社

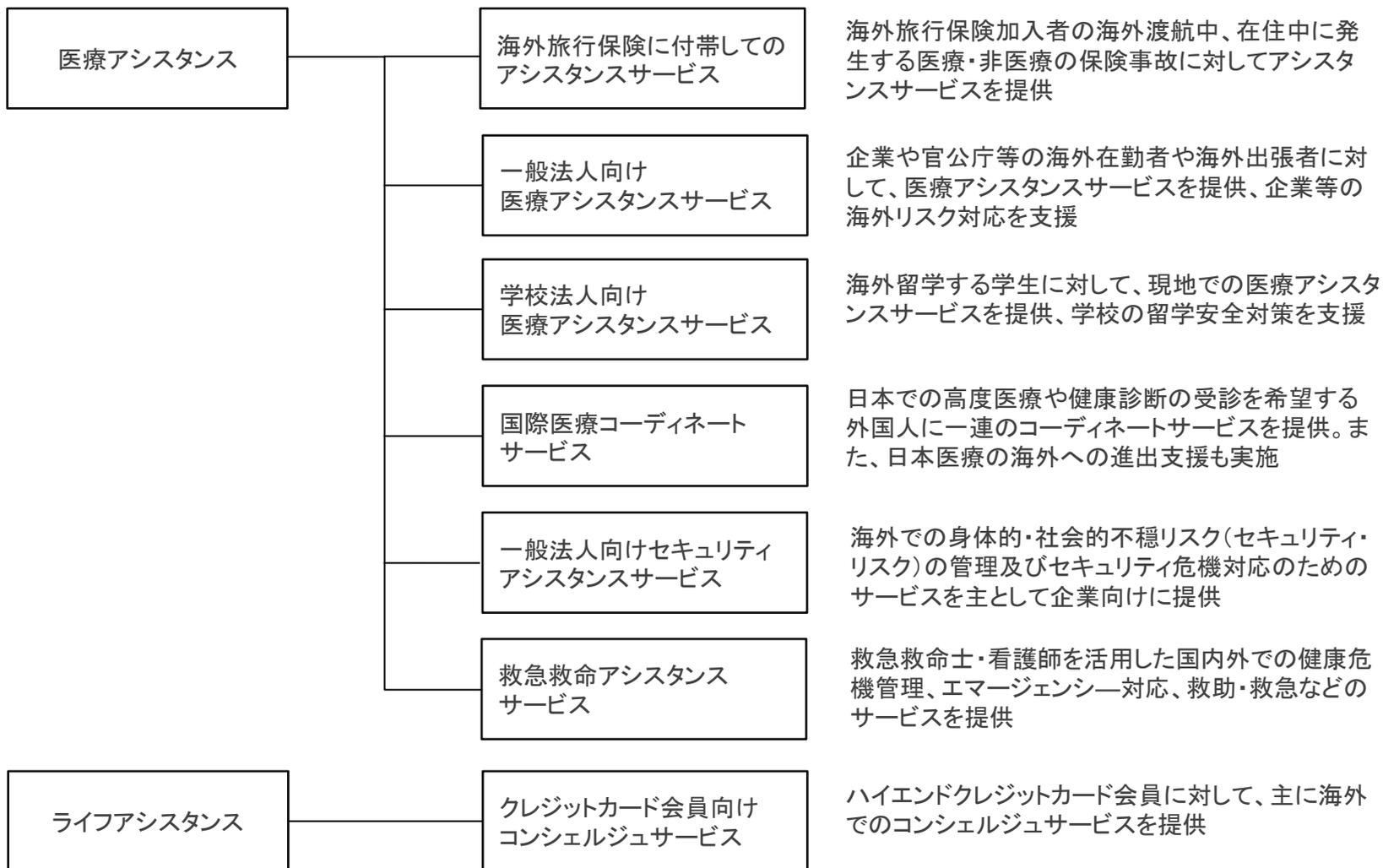
2018年11月12日

I . EAJ事業内容のご説明

当社事業

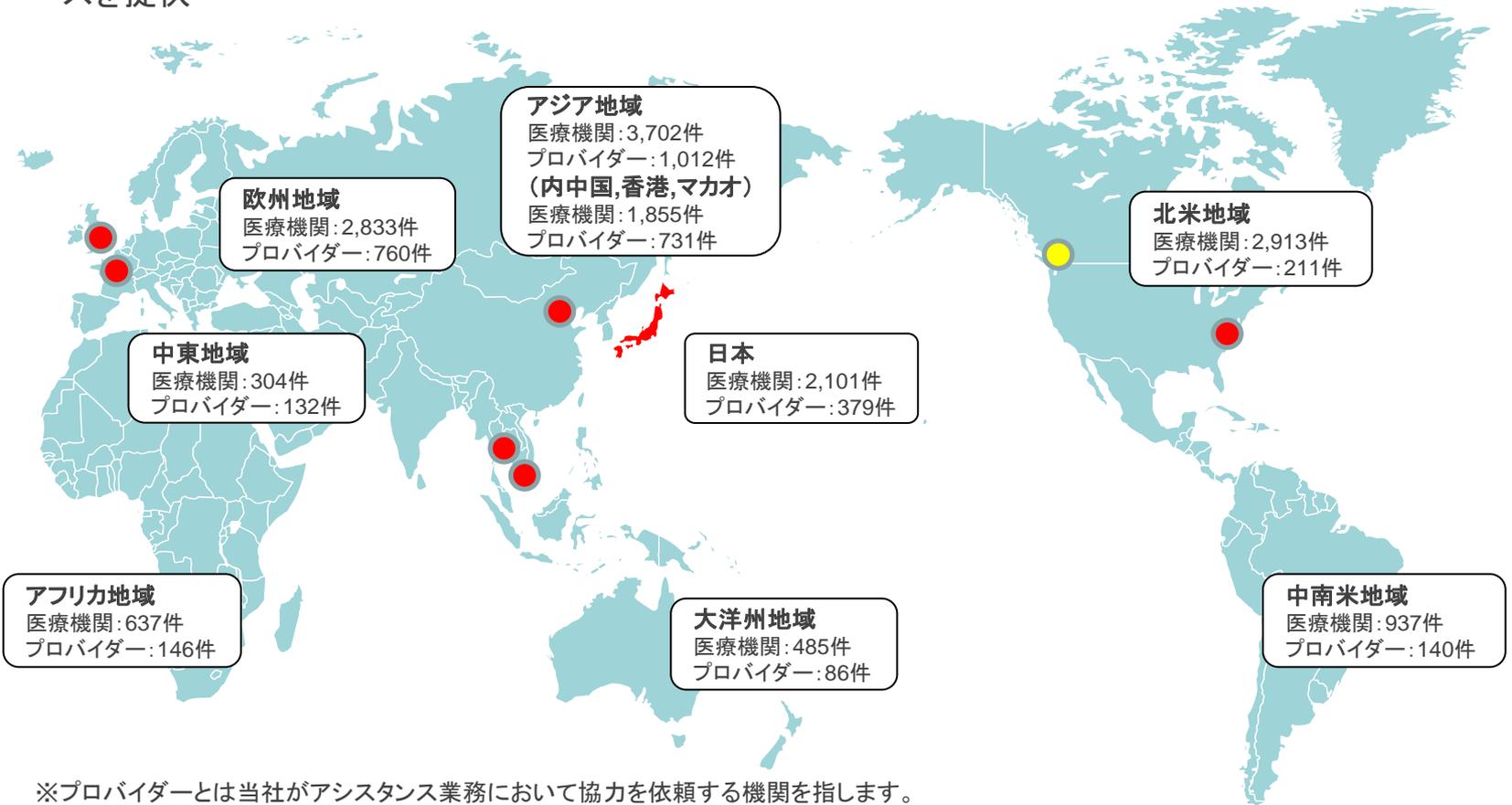
事業

展開する主なサービス概要



EAJのネットワーク網

- 6ヶ国に海外センターを配置（● 米国、中国、タイ、シンガポール、英国、フランス）
- カナダバンクーバーに海外センターを設立・2019年1月開始予定（●）。
- 拠点数は全世界で12カ所、グループ要員数は310名
- 世界各国で提携関係にある約13,900件の医療機関と約2,800件の海外プロバイダーを活用しサービスを提供



※プロバイダーとは当社がアシスタンス業務において協力を依頼する機関を指します。
 ※数字は2018年10月末時点のもの

Ⅱ. 2018年度第3四半期連結累計期間の決算報告

第3四半期の決算業績サマリー

- 売上高 2,119百万円(前年同期: 1,915百万円)
営業利益 135百万円(前年同期: 30百万円)
経常利益 125百万円(前年同期: 10百万円)
四半期純利益 90百万円(前年同期: 7百万円)
- 売上高は2,119百万円と前年を上回った。
 - 医療アシスタンス事業の売上高は前年比11.7%増となった。
 - ✓ 海外旅行保険の付帯サービスに関しては、海外出国者数の増加を受けて、前年同期比で大幅に増加した。
 - ✓ 法人・大学・セキュリティともに売上は順調に増加した。
 - ✓ 外国人患者受入事業も堅調で前年比売上増となった。
 - ライフアシスタンス事業の売上高は前年比で6.0%増となった。
 - ✓ 着実に事業を実施し、新規サービスも軌道に乗り、売上高は堅調に推移した。
 - ✓ 増大する顧客対応業務に対応するため人員採用を進め人件費も増加した。
- 費用に関しては、業務拡大に伴う要員増とカナダセンターの設置等の追加投資により増加したものの、営業利益は135百万円(前年比446.4%)、経常利益は125百万円(前年比1,239.4%)と増益となった。

第3四半期および直近のトピックス

- **カナダバンクーバーに新アシスタンスセンター(子会社)を設立し、バングラデシュ子会社(EAB)を清算**
 - 医療アシスタンスの効率化を推進し、北米地域の営業強化を図るため、カナダのバンクーバーに新たにアシスタンスセンター(子会社)を設け、2019年1月から営業を開始する。
 - バングラデシュ子会社を清算することで経営資源の効率的な配分を図る。
- **海外危機管理へのニーズが増大し、法人売上・大学売上が好調**
 - 国際情勢の緊迫化とともに海外における危機管理ニーズが高まりつつある。企業・法人向け医療・セキュリティアシスタンスの需要が増大し、売上が増加している。
 - 救急救命士・看護師が現場プラント、僻地サイトに常駐して現地医療体制を構築し、緊急時の救急対応と健康管理と傷害発生を未然防止する救急救命アシスタンスサービスを「EAJプロジェクトアシスト」としてパッケージ化し、民間企業向けに提供開始した。
- **インバウンドビジネスは堅調に推移している**
 - 医療ツーリズムに関しては、医療渡航支援企業としてのこれまでの実績と外国人患者受入医療機関の増加により、売上増が続いている。
 - 訪日外国人が増加するにつれて、日本の医療機関へ患者を手配するケースが増加し、緊急対応型医療アシスタンスの発生数も増加した。
 - 日本企業に勤務する外国人向けのインバウンドサービス、日本の大学に留学する外国人向けのインバウンドサービスへのニーズも伸びている。

セグメント別業績ハイライト

- 医療アシスタンス事業は、海外旅行保険の付帯サービス含めてすべての事業が堅調であり増収であった。人と設備への投資を継続して実施したためコストは前年を上回ったが、増益であった。
- ライフアシスタンス事業は既存事業は堅調で、新規サービスの実施も軌道に乗り増収となり、業務量増大のため人件費コストが嵩んだものの増益となった。

(単位:百万円)

	前年同期		当期実績	
	売上高	利益	売上高	利益
医療アシスタンス事業	1,569	258	1,752	356
ライフアシスタンス事業	346	70	367	86
調整額※	-	△298	-	△307
セグメント合計	1,915	30	2,119	135

※ 調整額とは、各報告セグメントに配分していない全社費用のこと。

※ セグメント利益の合計額は連結損益計算書の営業利益と一致している。

2018年第3四半期決算連結貸借対照表

- 借入金の返済に伴い現金及び預金が減少した。
- サービス提供金額の増大に伴い、医療機関に対する立替払いが増加している。

(単位:百万円)

	2017末 (構成比)	第3Q実績 (構成比)
資産合計	2,119 (100%)	2,212 (100%)
流動資産	1,792 (85%)	1,874 (85%)
固定資産	327 (15%)	337 (15%)
負債合計	1,369 (65%)	1,388 (63%)
流動負債	1,307 (62%)	1,336 (60%)
固定負債	61 (3%)	51 (2%)
参考:借入金残高	754 (36%)	632 (29%)
純資産合計	750 (35%)	823 (37%)

資産

- 医療機関に対する立替金が増加した
- 取引先に対する売掛金が増加した

負債

- 借入金を返済した

純資産

- 当期純利益の増加

Ⅲ. 各種施策の取組み状況のご説明

各種施策に関する主要NEWS RELEASE

カナダバンクーバーでの新アシスタンスセンター (子会社)の設立とEAB(子会社)の清算

NEWS RELEASE

Emergency Assistance Japan
2018年8月15日

各位

会社名 日本エマージェンシーアシスタンス株式会社
代表者名 代表取締役社長 吉田 一正
(コード番号: 6063 東京証券取引所JASDAQ)

カナダバンクーバーでの新アシスタンスセンター (子会社)の設立とEAB(子会社)の清算

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社(略称: EAJ、本社: 東京都文京区、代表取締役社長: 吉田一正、URL: <https://emergency.co.jp/>)は、医療アシスタンスの効率化を推進し、北米地域の営業強化を図るため、カナダのバンクーバーに新たにアシスタンスセンター(子会社)を設け、年内に営業を開始することにし、併せて Bangladesh 子会社を清算することで経営資源の効率的な配分を図ることにしましたのでお知らせいたします。

■バンクーバーセンター設立の目的・背景

当社はおお客様の要望に応えるため、世界中のどこで発生した医療アシスタンスケースに対しても同一レベルの高品質サービスを提供できる「シングルプラットフォーム」の実現を目指して東京および世界各地に合計6カ所のアシスタンスセンターを設置しております。今回、新たにカナダのバンクーバーに新センターを設けることで、医療アシスタンス事業の効率化を図ると共に、北米地域での営業強化を推進し、より充実したサービスを多くのお客様に提供して参ります。

■新設される会社概要

商号	EAJ Assistance Services Canada, Inc
社長	中村佳恵
所在地	360-900 Howe street, Vancouver, BC
営業開始日	2018年12月
主な事業内容	① 疾病、災害、事故等に遭遇した人に対する医療機関の紹介、予約代行、医療通訳、緊急搬送および医療機関に対する支払保証・立替払い等 ② 医療機関に対する医療通訳・医療費の請求代行、支払保証・立替払い等

■ Bangladesh での事業展開について

現在進行中の Bangladesh におけるサイトクリニックの展開は、今後、EAJ のビジネスパートナーである日本での医師資格を持つ Bangladesh 人医師の現地会社を主体として進めます。このため、合併会社 (Emergency Assistance Bangladesh Co., Ltd, 以下「EAB」) は清算し、同医師との関係を強化しつつ、現地での医療関連事業をよりスピーディーに拡大して参ります。

前代表取締役社長 吉田 一正「お別れの会」開催

- 当社の前代表取締役社長の吉田 一正が去る10月15日逝去いたしました。
- 故人が生前に賜りましたご厚情に感謝申し上げますとともに、個人を偲んで「お別れの会」を下記の通り執り行いますので謹んでお知らせ申し上げます。

1. 日 時:2018年11月28日(水) 12:00～13:00

2. 会 場:パレスホテル東京 2階「葵の間」

東京都千代田区丸の内1-1-1

会場へのアクセスはパレスホテル東京の[公式サイト](#)をご覧ください

なお誠に勝手ながらご香典ご供物の儀は固くご辞退申し上げます。

またご来臨の節は平服にてお越し下さいますようお願い申し上げます。

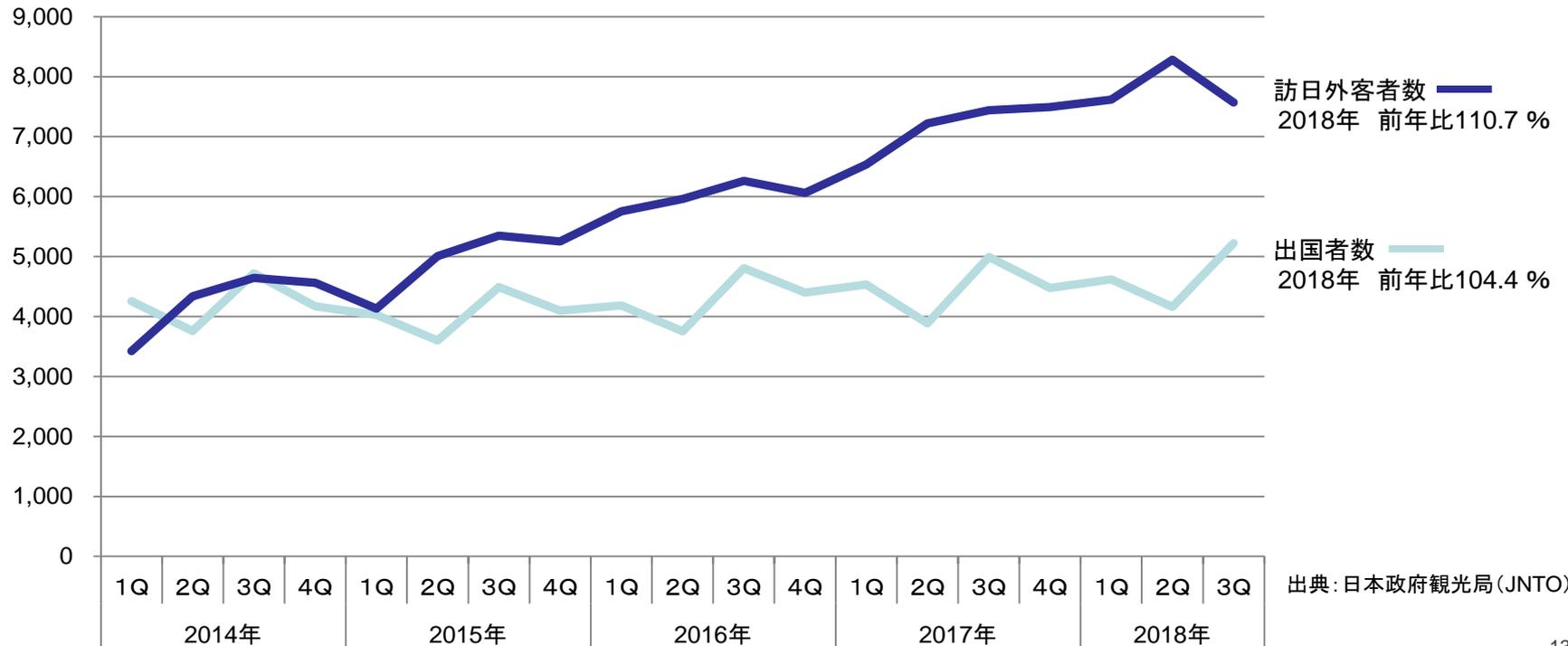
IV. 外部環境とリスクについて

海外出国者・入国者数の推移

- 海外出国者数は継続的に増加、訪日外客数は9月は台風や北海道での地震の影響により前年比で減少したもののトレンドとしては引き続き大幅に増加しており、当社にとって外部環境は良好な状態が継続している。
 - ▶ 海外出国者数は増加し、2018年第3四半期累計値は前年同期比4.4%増であった。
 - ▶ 海外から訪日外客数も堅調で2018年第3四半期累計値は前年同期比10.7%増であった。

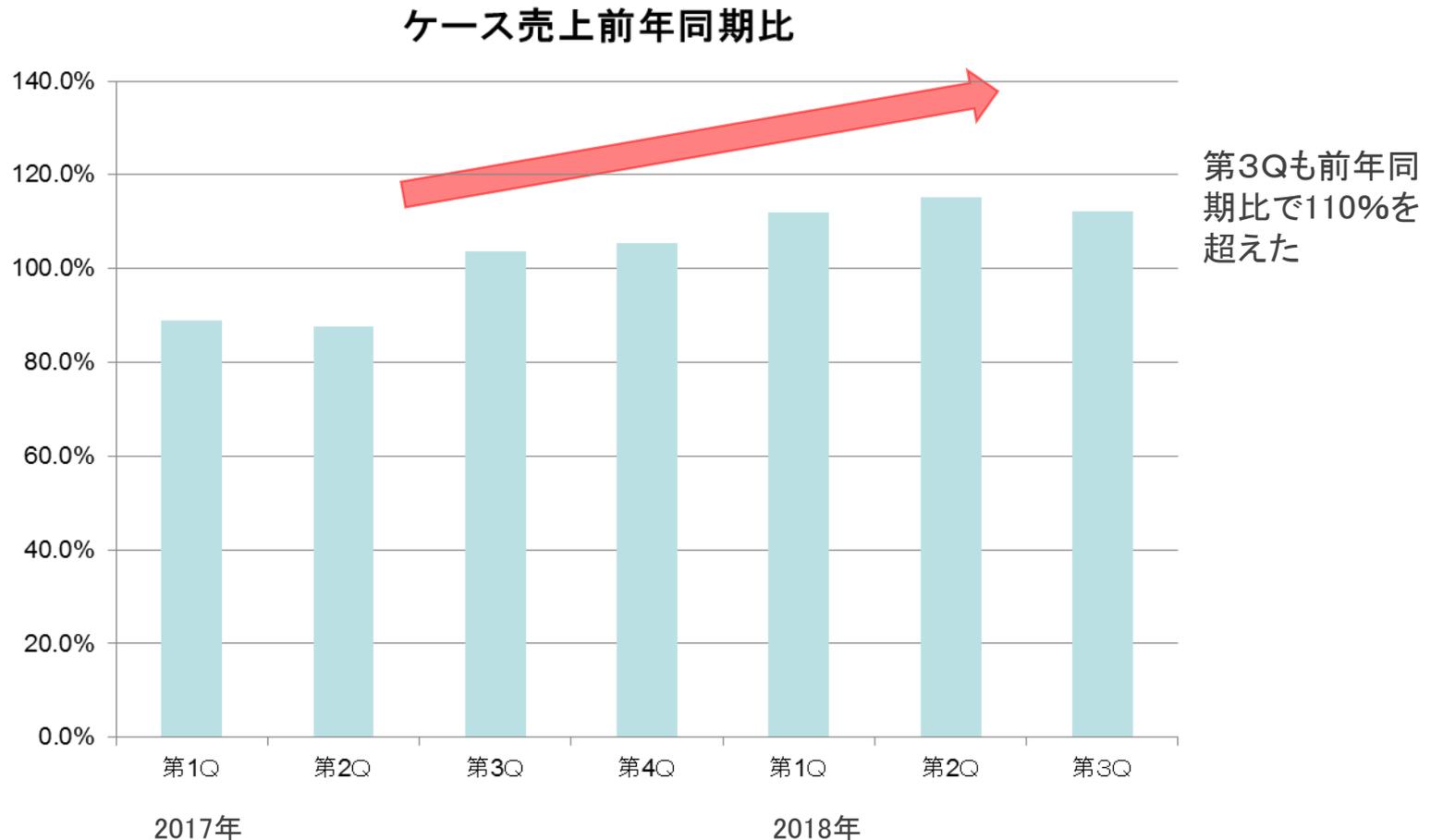
単位：千人

出国者数及び訪日外客数の推移



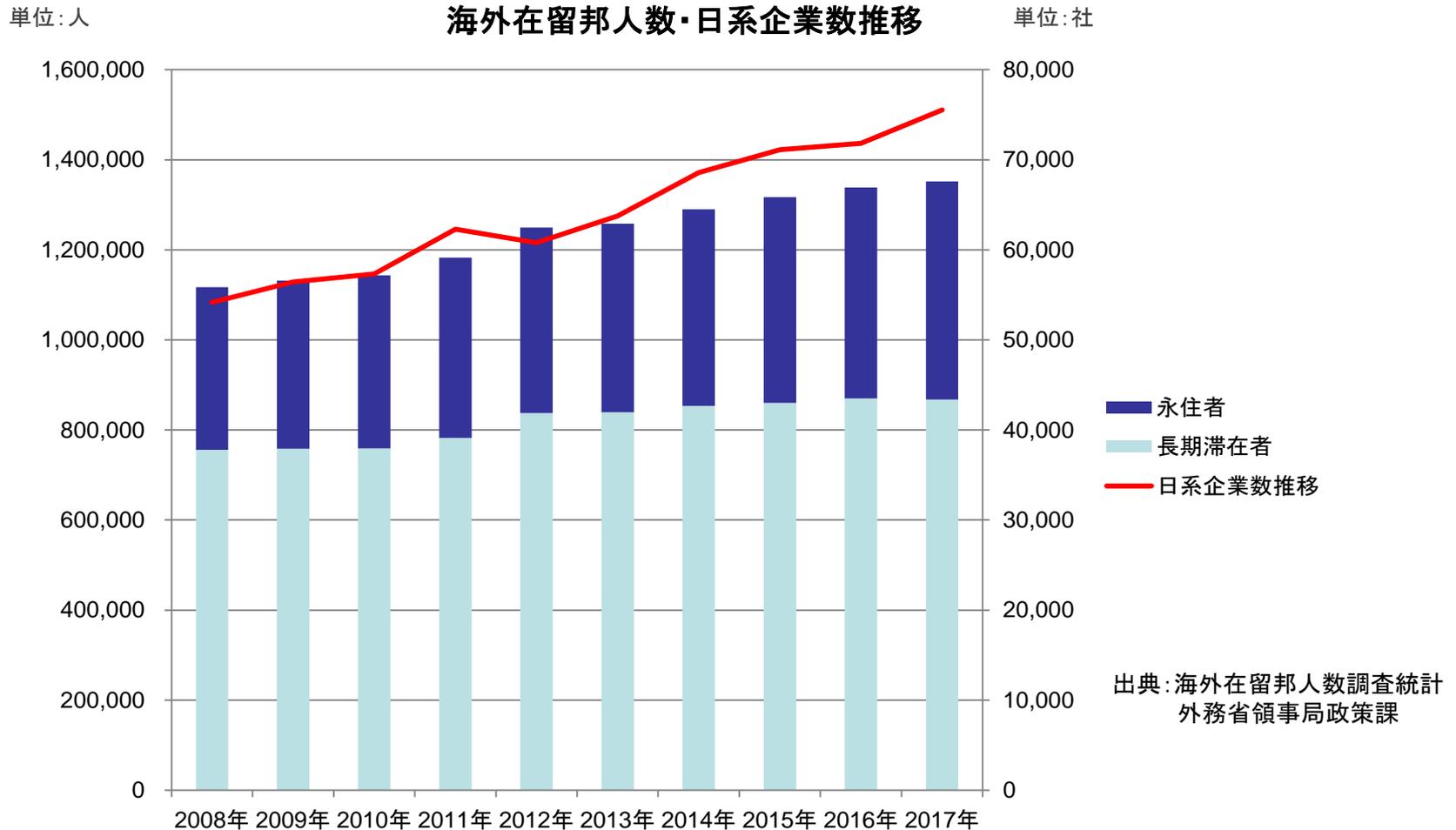
海外旅行保険付帯サービスは回復・拡大

- 海外旅行保険付帯サービスに関しては、海外出国者数の増加という好環境にも恵まれて、第3四半期の売上が前年同期比で10%以上のプラスとなった。



海外在留邦人数・日系企業数推移

- 海外在留邦人数・日系企業数は年々増加しており、海外における日本人の危機管理に対するニーズは高まっている。



法人・大学売上は好調を継続

- 海外危機管理の必要性の高まり、及び当社ビジネスに対する認知度向上により法人・大学向けアシスタンス売上は堅調に推移している。
- 当社と提携関係にある小石川インターナショナルクリニック(KIC)や社内外の医療者(医師、看護師、救急救命士)を活用して海外における搬送業務やプロジェクトに医療者を送り出すことができる点が企業・大学のニーズに合致。
- 海外拠点に当社社員が駐在しており、アシスタンスをフォローすることができる体制が整っている点も当社の強みである。

「EAJプロジェクトアシスト」を民間企業に提供開始



※「EAJプロジェクトアシスト」

救急救命士・看護師が現場プラント、僻地サイトに常駐して現地医療体制を構築し、緊急時の救急対応と健康管理と傷害発生を未然防止するサービスをパッケージ化

小石川インターナショナルクリニックと強く連携



※小石川インターナショナルクリニック

医療搬送業務、海外渡航時の予防接種、国内ホテルに宿泊する外国人の往診業務などで幅広く協業を実施。

KIC HP

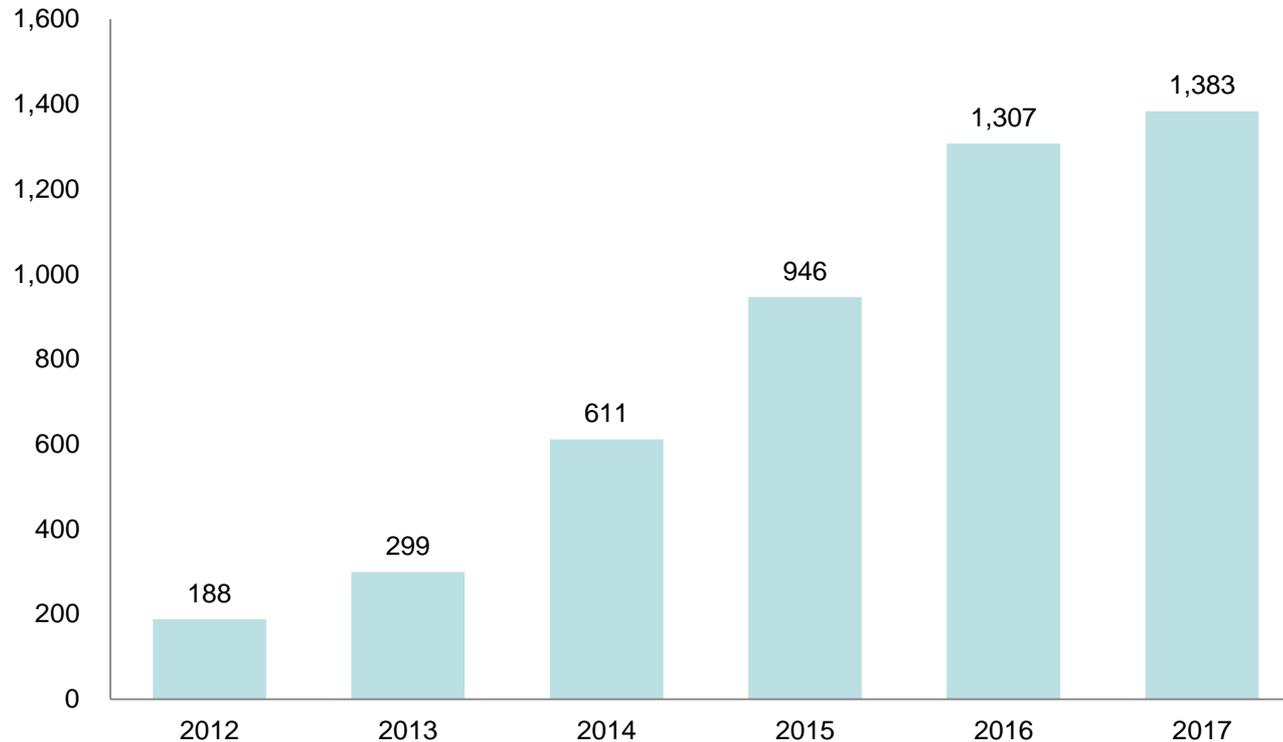
<http://www.kic.clinic/>

医療滞在ビザ発給数について

- 医療滞在ビザの発給件数は右肩上がりに増加している。
- 中国人向けがほとんどで87%、次いでロシア人が4.5%、ベトナム人が4.4%である。
- ビザ要件が緩和され、医療滞在ビザ以外のビザで医療を受けに来る割合が増えている

単位:件

医療ビザ発給件数

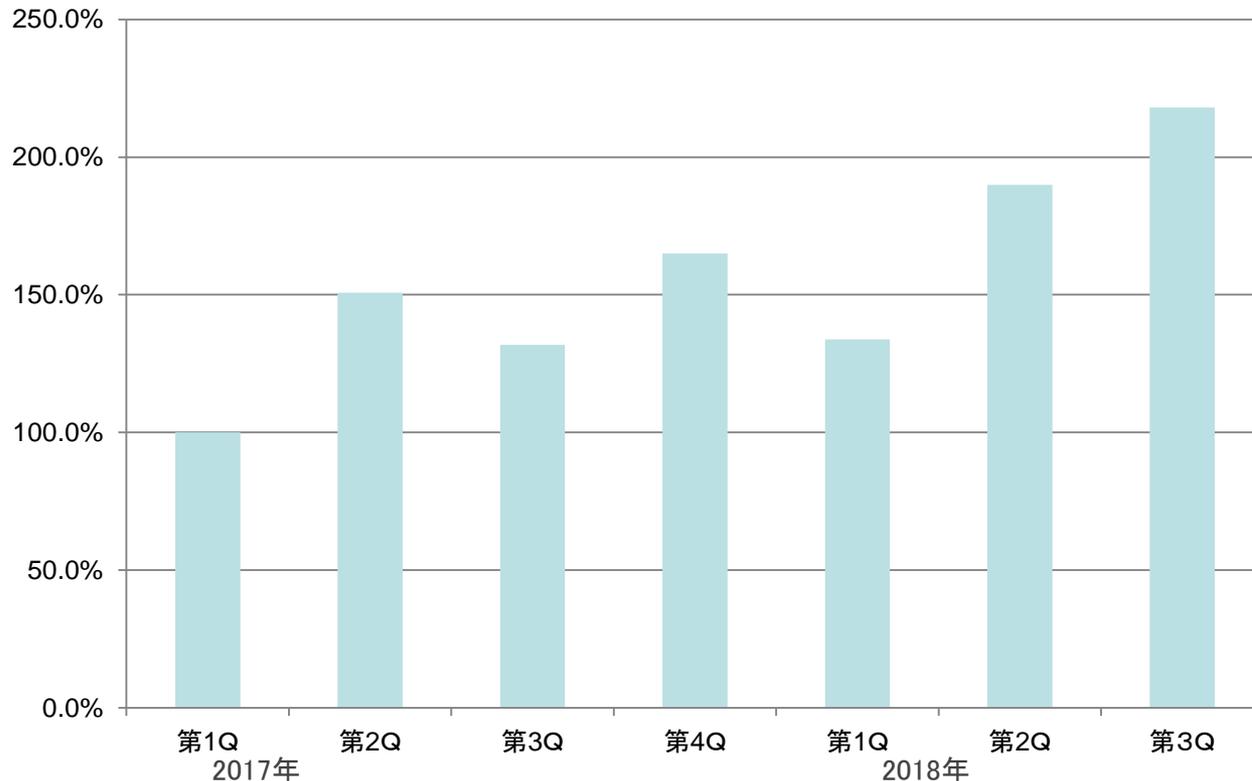


出展:外務省「平成29年査証発給統計(国籍・地域別)」参照

インバウンドサービスは堅調に推移

- 医療ツーリズム売上は堅調に推移している。
- 受入医療機関との連携関係強化において他社との差別化を図り、問い合わせおよび成約率を伸ばしている。
- 中国オフィスでの活発な営業活動、WeChat等のSNSツールによる広告宣伝も実施。

医療ツーリズムの伸び率推移



医療ツーリズム売上は季節的な変動はあるものの、堅調に推移している。

※2017年第1Qの数字を100とした場合の伸び率推移

インバウンドサービスは堅調に推移

- インバウンドサービスとして日本で外国人従業員を雇用している企業、日本への外国人留学生を受入れている大学からのニーズなども増加している。
- 訪日外国人への緊急対応型医療アシスタンスは堅調であり、訪日外国人の増加とともに増加するニーズにしっかり対応するため、官公庁・保険会社等と様々な施策を検討している。

インバウンドの種類	ケース	当社の対応
医療ツーリズム (高度医療受診の紹介)	高度先進医療の受診 ・がん粒子線治療 ・内視鏡 ・循環器、再生医療 ・人間ドッグ 等	・医療機関コンサルテーション ・来日から帰国までのアレンジメント ・医療滞在ビザの取得サービス ・24時間365日のコールセンターサービス ・通訳・翻訳、支払代行サービス
訪日・在日外国人への緊急 対応型医療アシスタンス	訪日外国人が病気や怪我をした場合	・約1,000件の国内医療機関から適切な医療機関を紹介 ・通訳・翻訳、支払代行サービス ・患者情報収集・保険請求サポート ・搬送・その他専門サービスの手配
その他インバウンドサービス	・日本企業に勤務する外国人従業員向けサービス ・日本の大学への外国人留学生に対するサービス	同上

V. EAJのサービス

海外進出企業・学校法人が抱えるニーズ

- 海外進出企業・学校法人は、海外で起こる様々なリスクに対応しなければならない。
- 海外リスクのマネジメントをプロフェッショナル企業に外注することは選択肢の1つである。

法人・学校法人のお客さまが抱える具体的なニーズ

- ▶ 各国現地支社・留学生の要望で、現地病院受診の仕組みを構築しなければならない。世界各国の駐在員・留学生に均一のサポート体制が必要
- ▶ 政情不安な地域で、有事の際に具体的な対応ができる手段を探している。危機対応プランを策定、事前に本社・本校・現地にて共有して、事態に備えたい。
- ▶ 独自に駐在員・留学生向けサービスを検討している。各国の状況に即したサポート体制を提供できる仕組みを、社内・校内に導入したい。
- ▶ 例えばオリンピックで協賛会社として開催前から多くのスタッフを現地に送り、開催期間中にゲストを招待する。危機管理や医療の手厚いサポートを提供できる方法は無いか(※)。
- ▶ 人事・労務・安全管理担当として、政情不安やインフラ不足の地域で、有事の際にどうするべきか、現地の医療情報収集と重症対応時の計画を事前にシミュレーションしておきたい。

当社が提供するサービス



医療アシスタンスサービス



セキュリティサービス



場所や期間を特定した医療
アシスタンスサービス

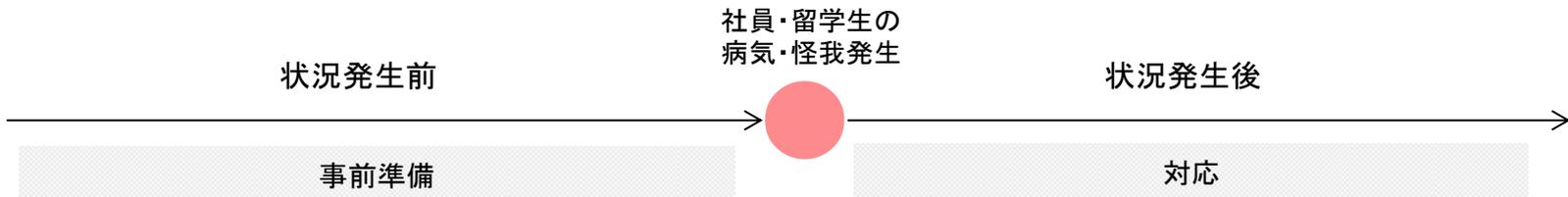


コンサルティングサービス

※EAIはリオオリンピックで国際的大手メーカーに医療アシスタンスサービスを提供しました。

企業・学校法人向けサービス

EAJは会員に対するサービス提供において的確かつ迅速なアシスタンス手配が遂行出来るよう、現地サービス体制、セキュリティ体制等、移送・搬送ルート等を可視化するシステムを利用して万全の体制を構築します。



事前コンサルティングサービス

- 世界各国の医療事情報告
- 世界各国の医療機関情報の提供
- 世界各地からの緊急搬送ルート・シミュレーション
- 特定地域のアシスタンス調査・配置



海外24時間医療アシスタンスサービス

- 海外における現地病院の手配
- 医療通訳アレンジ
- 入院費・治療費の支払保証・支払
- 日本人専門医による治療状況のモニタリング
- セカンドオピニオン提供
- 医療者の派遣
- 緊急医療搬送(近隣医療先進国・日本への搬送)



アシスタンスで お客様の世界を広げる

本説明資料に含まれる将来の見通しに関する部分は、現時点で入手可能な情報に基づき判断したものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらの不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、為替変動、国内外の事業に影響を与える政府の法規制といった国内及び国際的な経済状況などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

また、当資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定はご自身の判断において行われるようお願いいたします。

Copyright ©Emergency Assistance Japan Co., Ltd. All Rights Reserved.

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社